

かかりつけ薬剤師・薬局を広く県民に浸透させるための かごんま「どんどん」プロジェクト

「おくすり整理そうだんバッグ」を活用した入退院時 における多職種連携の推進事業等の取組み



鹿児島県くらし保健福祉部薬務課

1

鹿児島県の概要

○県人口 1,600,467人
(2019.12.1)

○薬局数 892件 (2019.4.1)

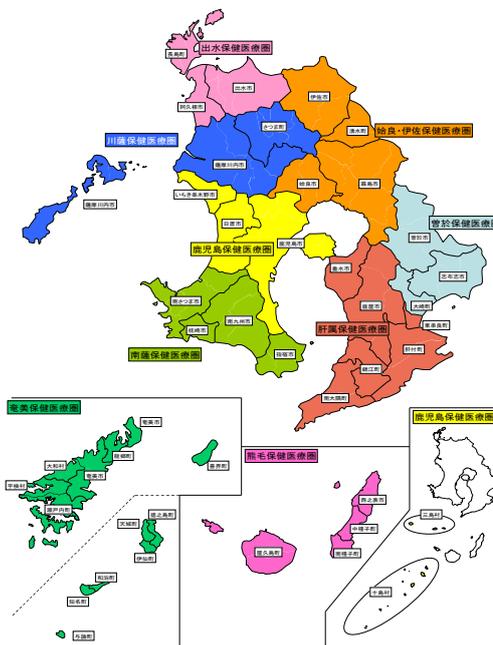
- ・人口10万対薬局薬剤師数 113.1 (全国40位)
- ・人口10万対病院薬剤師数 53.3 (全国11位)
- ・1薬局あたり薬局薬剤師数 2.06 (全国46位)

出典) 平成28年度薬剤師調査等

◆本県の総面積は、約9,187平方キロメートルで全国第10位

◆太平洋と東シナ海に囲まれた南北約600キロメートルにわたる広大な県土を有する

◆種子島、屋久島、奄美群島をはじめとする多くの離島は本県面積の約28%と大きな比重を占めている



2

鹿児島県における薬局ビジョン事業

【平成29年度】

応募事業メニュー

② 多職種連携による薬局の在宅医療サービスの推進事業

薬学的介入による在宅医療サービス推進事業

【平成30年度】

応募事業メニュー

④ 「薬局薬剤師と病院薬剤師の連携(薬薬連携)の地域連携を担う人材育成事業

- ① 「おくすり整理そうだんバッグ」を活用した入退院時における薬薬連携の推進
- ② CKD患者への腎排泄型薬剤の投与量チェックによる薬薬連携の推進
- ③ 外来化学療法患者の服薬状況及び副作用モニタリングによる薬薬連携の推進

3

当県の現状・課題を踏まえた事業の方向性

【調査・検討】

- ◆ かかりつけ薬剤師・薬局実態調査（調査期間：平成30年12月～平成31年1月，対象薬局数：894件，回収率89.5%）
- ◆ 薬局の機能および相談内容に関する調査（調査期間：令和元年9月，対象薬局数：892件，回収率55%）
- ◆ かかりつけ薬剤師・薬局推進連絡会議（多職種参加会議）

【現状及び課題】

- 平成30年度事業で、当県では、薬薬連携等を担う人材育成事業のメニューを選択し、「おくすり整理そうだんバッグ」を活用した入退院時における薬薬連携の推進を行う事業等を行ったが、事業を実施する中で、「かかりつけ薬剤師・薬局」を知らない患者が多く、多職種や住民に対して、現在、「かかりつけ薬剤師・薬局」は十分に県民へ認知されていないといった課題が浮き彫りとなった。
- 県が実施した、かかりつけ薬剤師・薬局実態調査において、平成30年1月～12月の間に、かかりつけ薬剤師指導料又はかかりつけ薬剤師包括管理料を算定している薬剤師がいると回答した薬局は50.1%に留まっている。
- また、同調査において、医療機関との連携による、退院時カンファレンスへの参加や退院時の情報共有体制があると回答した薬局は28.8%にと留まり、多くの薬局は入退院時における情報共有体制をとれていないという結果であった。
- 「かかりつけ薬剤師・薬局推進連絡会議」において、「かかりつけ薬剤師・薬局」の役割の中で多くの多職種が一番重要だと考える項目は「服薬情報の一元的・継続的把握」であるといった結果であった。



「かかりつけ薬剤師・薬局」を広く県民に浸透させる事が急務！！

また、服薬情報の一元的・継続的把握をすすめ地域連携へとつなきたい。

【事業の方向性】

- 多職種、地域住民に対して薬剤師・薬局の出来る役割・機能を紹介し広報を行うことで、「かかりつけ薬剤師・薬局」認知度を向上させ、地域住民が自分の「かかりつけ薬剤師・薬局」を選択できるようにする。
- 薬局から選定したハイリスク薬服用患者に対して、「かかりつけ薬剤師」の算定の有無にかかわらず、「服用期間を通じた、継続した副作用モニタリング」を行うことで、「かかりつけ薬剤師・薬局」の機能や有効性をアピールする。
- 昨年度実施した「おくすり整理そうだんバッグ」を活用した入退院時における薬薬連携事業を、多職種へも視野を広げて、薬局から多職種へ働きかけ、情報共有することで、薬局から入院時連絡票を医療機関へ発信できる体制づくりを構築し、入退院時における「服薬情報の一元的・継続的把握」を推進する。

4

事業全体の概要（令和元年度）

【県薬剤師会への委託事業】

1 「おくすり整理そうだんバッグ」を活用した入退院時における多職種連携の推進事業

- これまで、残約整理・回収のツールとして利用されていた当バッグを、平成30年度事業では、患者の医療機関入院時に、医療機関と薬局間での患者情報共有ツールとして活用して、入退院時の文書による情報共有や薬局において入院前の薬剤整理等を行う薬業連携事業を実施した。
- 今年度は、昨年度事業を継続するとともに、昨年度事業結果の課題を踏まえて、新たに、多職種へ広く本取組を周知し、薬局薬剤師が、入院する患者情報を多職種と情報共有するなど、多職種と連携をして、患者の服薬情報を入退院時も切れ目無く一元的・継続的な管理を行えるよう 事業展開を行う。

2 ハイリスク薬服用患者の服用期間を通じた、継続的な薬学管理・患者支援の推進事業

- 協力薬局において、ハイリスク薬を服用している患者の服薬アドヒアランスや副作用モニタリングを定期的に実施し、得られた患者情報を薬学的知見に基づき、必要に応じて処方医や病院薬剤師へ情報提供を行い患者の薬物療法を支援する。
- プレアポイド報告等からモニタリングした情報を収集し、薬剤師が服薬期間を通じた継続的な介入を行ったことによる効果を検証する。

3 「相談シート」を活用した、かかりつけ薬剤師・薬局の普及啓発・ニーズ分析事業

- 地域住民や多職種に向けて、かかりつけ薬剤師・薬局の機能を紹介するチラシと薬局に対する「相談シート」が一体となった配布物を作成し、薬局や地域の健康教室、多職種研修会等で説明・配布することで、かかりつけ薬剤師・薬局の広報を広く行う。
- 管理薬剤師に対し、アンケートを実施し、「薬局の機能に関する実態調査および患者からの相談内容」を収集し、地域の中で求められる薬局の機能や役割を調査する。今後、患者の相談ニーズに対応するための薬局が優先的に取組課題を抽出する。

5

かごんまどんどんプロジェクト 「おくすり整理そうだんバッグ」 を活用した入退院時における 多職種連携推進事業

令和2年 2月 3日 月曜日

厚生労働省講堂

鹿児島県薬剤師会 常務理事 沼田真由美



燃ゆる感動 **かごしま国体**

第75回国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2020

鹿児島県薬剤師会

これまでの 残薬整理・薬薬連携 多職種連携の取組について

7

残薬整理事業

【平成23年度】

○地域支えあい体制づくり推進事業

・県内10地区15か所で多職種との意見交換会実施

⇒多職種より、在宅の残薬で困っている現状の訴え。

薬局薬剤師に相談しづらい。。。↓

まずは、薬剤師に相談してほしい。

そのツール、シンボルとして

「おくすり整理そうだんバッグ」作成

【平成24年度】

○おくすり整理そうだんバッグ事業(残薬整理事業)開始

(年1~2回ペースで、現在も継続実施)

⇒平成30年度 薬局ビジョン推進事業



「おくすり整理そうだんバッグ」「入院準備連絡票」「薬剤管理サマリー」を活用した入退院時における薬薬連携事業

入退院時の現状と課題

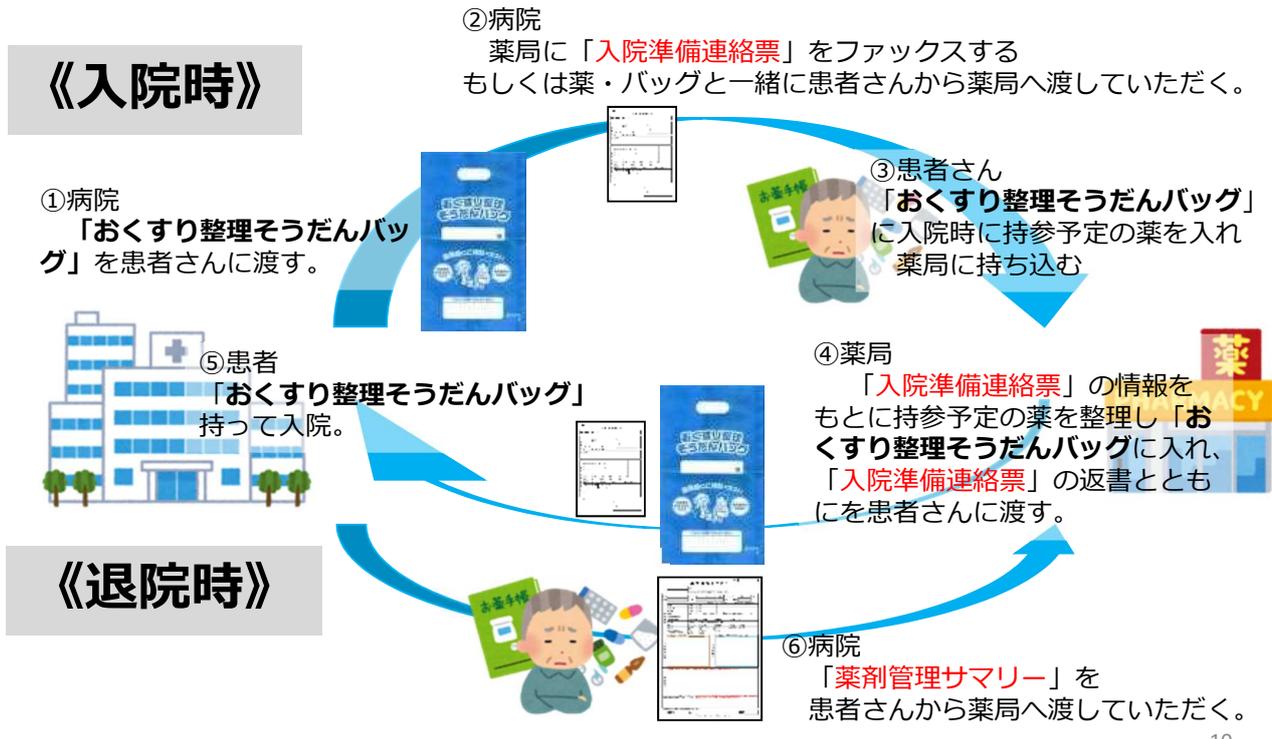
<薬局では・・・>

数か月ぶりに来局する患者。実は入院していた。。

<病院では・・・>

入院時に大量の持参薬を持ち込むが、普段の服薬状況や他科受診背景など全くわからない患者。

「おくすり整理そうだんバッグ」「入院準備連絡票」「薬剤管理サマリー」を活用した入退院時における薬薬連携事業



様式 1

入院準備連絡票

持込(予定)薬局名:

病院記入欄	患者氏名 ¹⁾	病院名 ²⁾	
	生年月日 ³⁾	T・S ⁴⁾ H・R ⁵⁾	連絡先 ⁶⁾
	入院予定日 ⁷⁾	年 ⁸⁾ 月 ⁹⁾ 日 ¹⁰⁾	TEL: ¹¹⁾
	入院予定日数 ¹²⁾	日 ¹³⁾	FAX: ¹⁴⁾
	手術予定 ¹⁵⁾	<input type="checkbox"/> なし ¹⁶⁾ <input type="checkbox"/> あり ¹⁷⁾	
	その他 ¹⁸⁾	<input type="text"/>	

薬局記入欄 <small>(把握可能な範囲で)</small>	アレルギー歴 ¹⁾	<input type="checkbox"/> なし ²⁾ <input type="checkbox"/> あり ³⁾	該当薬剤 ⁴⁾	発現時期 ⁵⁾	症状 ⁶⁾	
	副作用歴 ⁷⁾	<input type="checkbox"/> なし ⁸⁾ <input type="checkbox"/> あり ⁹⁾				
	調剤方法 ¹⁰⁾	<input type="checkbox"/> PTP ¹¹⁾ <input type="checkbox"/> 一色化 ¹²⁾ <input type="checkbox"/> 簡易感濁 ¹³⁾ <input type="checkbox"/> 粉砕 ¹⁴⁾ <input type="checkbox"/> その他 ¹⁵⁾				
	自宅での服薬管理 ¹⁶⁾	<input type="checkbox"/> 本人 ¹⁷⁾ <input type="checkbox"/> 家族 ¹⁸⁾ <input type="checkbox"/> 訪問 ¹⁹⁾ <input type="checkbox"/> ヘルパー等 ²⁰⁾ <input type="checkbox"/> その他 ²¹⁾				
	服薬状況 ²²⁾	<input type="checkbox"/> 良好 ²³⁾ <input type="checkbox"/> 時々忘れる ²⁴⁾ <input type="checkbox"/> よく忘れる ²⁵⁾ <input type="checkbox"/> 拒薬あり ²⁶⁾ <input type="checkbox"/> その他 ²⁷⁾				
一般用医薬品・健康食品等 ²⁸⁾	<input type="checkbox"/> なし ²⁹⁾ <input type="checkbox"/> あり ³⁰⁾					
お薬手帳 ³¹⁾	<input type="checkbox"/> なし ³²⁾ <input type="checkbox"/> あり ³³⁾					
	その他 ³⁴⁾	<input type="text"/>				

平成30年度事業で、全県下で使用できる様式を作成

薬局名 ³⁵⁾	連絡先 ³⁶⁾	TEL: ³⁷⁾	FAX: ³⁸⁾
--------------------	--------------------	---------------------	---------------------

薬剤管理サマリー

作成日

種々の退院時処方・薬学的管理事項について連絡申し上げます。

生年月日 歳 性別 身長 cm 体重 kg

入院開始 ~ 日 退院予定 日

禁忌薬	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	既往薬歴	発症時期	発症時の状況等 (検査値も記載可)
アレルギー歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
副作用歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
腎機能	SCr <input type="text"/>	Trig/L <input type="text"/>	eGFR <input type="text"/>	尿酸値 (Urea/Cr) <input type="text"/>
その他必要な検査情報	<input type="text"/>			
入院中の服薬管理	<input type="checkbox"/> 自己管理 <input type="checkbox"/> 1日配薬 <input type="checkbox"/> 1回配薬 <input type="checkbox"/> その他 ()			
投与経路	<input type="checkbox"/> 経口 <input type="checkbox"/> 経管 (経鼻・経腸・食道瘻・経膈)			
調剤方法	<input type="checkbox"/> PTP <input type="checkbox"/> 一色化 <input type="checkbox"/> 簡易感濁 <input type="checkbox"/> 粉砕 <input type="checkbox"/> その他			
服薬状況	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 時々忘れる <input type="checkbox"/> 忘れる <input type="checkbox"/> 拒薬あり <input type="checkbox"/> その他			
退院後の服薬管理方法	<input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> その他 ()			
一般用医薬品・健康食品等	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ()			

入院時持参薬

退院時処方

特記事項

持参薬に注意する薬剤 なし あり

※この不備な点がございましたら、下記薬剤師までお問い合わせください。

施設名 住所: TEL () () FAX () () 薬剤師

鹿児島県薬剤師会HPより ダウンロード可能

公益社団法人鹿児島県薬剤師会

ホーム 組織概要 薬剤師の活動 イベント情報 無料職業紹介所 お問い合わせ 薬剤師の皆様

2019年12月5日 令和元年年度登録販売者研修会のご案内

2019年12月5日 第4回県民の森 ウォーキング大会

2019年10月28日 **かごしま入証丹 採採の会 採採**

2019年10月28日 介護ふれあいフェスタ2019の開催について【採採】

ここをクリック

認定 かかりつけ薬局

薬剤師向けページはコチラから
会員登録もこちらよりダウンロードいただけます

公益社団法人鹿児島県...
の会「いっしょ」の会

公ギチャンネル

会員手続き

会員登録・変更等
こちらよりダウンロード可能です

アンチ・ドレプ Hotline

ドレプ懸念に関するご相談はコチラから
～薬剤師向け～

オレンジプランに基づく
薬剤師認知症対応力向上研修会

かごしま
どんどん
プロジェクト

鹿児島県
かごしま医療情報ネット

休日当番

薬局
情報

在宅訪問薬局
検索システム 薬局

禁煙サポート薬局

おくすり
整理そうだんバッグ

一歩み出しの整理袋です

お薬手帳

12

「おくすり整理そうだんバッグ」「入院準備連絡票」「薬剤管理サマリー」を活用した入退院時における薬薬連携事業

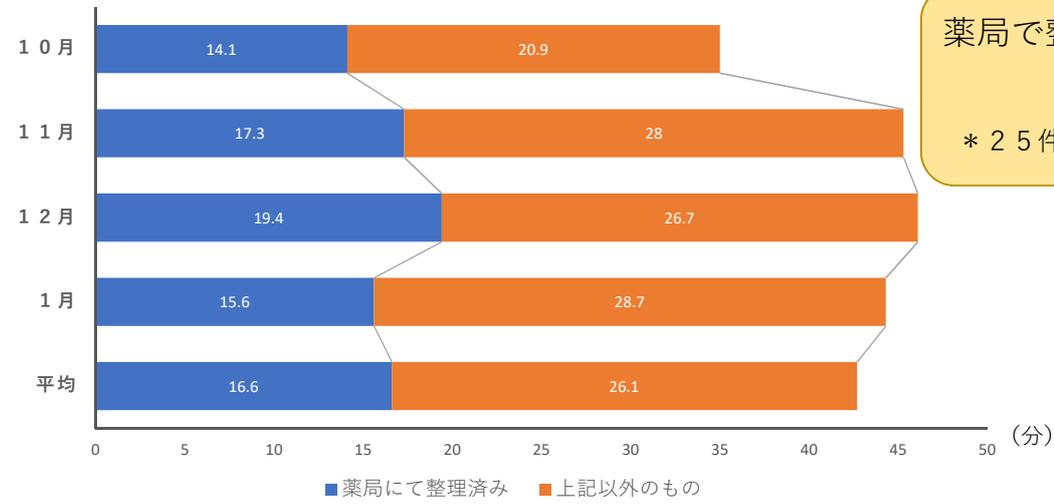
病院データ集計 ①

	10月	11月	12月	1月	計
入院準備連絡票交付数	10	26	15	14	65
持参薬 (薬局にて整理済み) 持ち込み件数	6	14	9	13	42
薬剤管理サマリー交付数	3	9	11	5	27

* 実施率：持参薬持ち込み件数／入院準備連絡票交付数 42／65 64.6%

「おくすり整理そうだんバッグ」「入院準備連絡票」「薬剤管理サマリー」を活用した入退院時における薬薬連携事業

病院データ集計 ②



薬局で整理に要した時間
25.8分
* 25件(17薬局)の平均

* 実施率：持参薬持ち込み件数／入院準備連絡票交付数 42／65 64.6%

「おくすり整理そうだんバッグ」「入院準備連絡票」
「薬剤管理サマリー」を活用した入退院時における薬薬連携事業

結果①

- 1) 取組内容を理解していただき参加していただいた患者の満足度は高い傾向にある
- 2) 本取組は薬剤師のみならず、患者、薬剤師以外の医療従事者にとっても有益である

* 別調査のアンケート結果を含む

15

「おくすり整理そうだんバッグ」「入院準備連絡票」
「薬剤管理サマリー」を活用した入退院時における薬薬連携事業

結果②

- 1) 取り組みを、患者に理解してもらうのが難しい。
⇒そもそもかかりつけ薬局が患者に浸透していない
- 2) 入院前に薬局に持参予定薬を持ち込んでいただくことが困難である。



本事業をすすめるためには・・・

患者・多職種へ「かかりつけ薬剤師・薬局」の役割を知ってもらい、薬局が情報を得られる場所とならなくてはならない。

* 別調査のアンケート結果を含む

16

そこで今年度は、、、

入口を広げて他職種連携へ

かごんまどんどんプロジェクト 「おくすり整理そうだんバッグ」 を活用した入退院時における 多職種連携推進事業



17

3つの入口



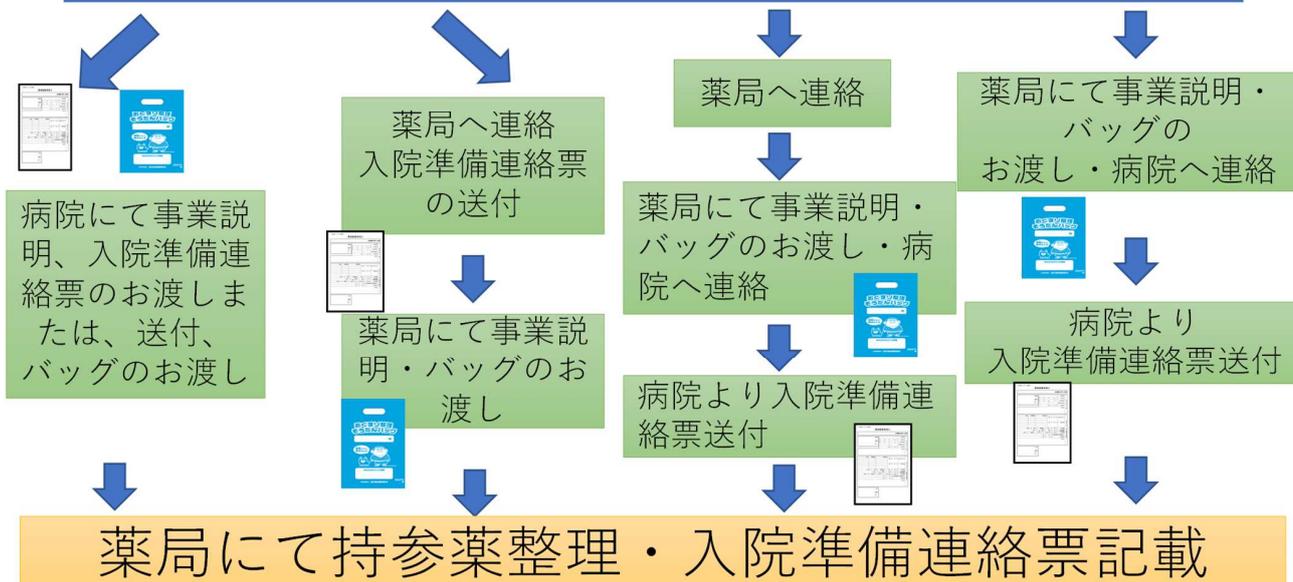
入院が決まった
患者さん

医療機関

多 職 種

かかりつけ薬局

患者さんへ薬薬連携の説明・同意



18

事業実施方法

事業期間： 第1期 令和元年8月19日～9月28日
第2期 令和元年11月～令和2年3月

取組地区： 医療機関 手上げ方式
薬局 県下全会員薬局
<多職種連携推進モデル地域>
南薩地域 肝付地域

取組内容 事業説明会実施
多職種合同会議
実施件数、薬剤師へのアンケート調査、
患者への聞き取り調査 等

19

調査内容

①実施患者数

②患者へのアンケート調査（2種類）

⇒退院後の初めて来局された時

○薬剤師による聞き取り

○患者本人による記載、投函

（書式、県薬剤師会宛での封筒をお渡しし、
患者本人が必要に応じて記載、投函）

③保険薬局薬剤師による評価

⇒事業実施に係わった薬剤師へのアンケート調査
（入力フォームあり 随時）

④他職種による評価

⇒④事業実施に係わった多職種へのアンケート調査

薬局

①実施数および実施率の算出

⇒「バッグ」を配布した患者数と、実際に保険薬局で整理後の持参薬
をもって入院された患者数より実施率を算出し、報告

②病院薬剤師による評価

⇒②事業実施に係わった薬剤師等へのアンケート調査

病院

20

「おくすり整理そだんバッグ」を活用した 入退院時における多職種連携推進事業

結果

期間に参加表明のあった22医療機関のうち、以下の3医療機関での入院準備連絡票、バッグ配布の対応実績があった。

鹿児島市立病院

3件（保険薬局での持ち込み整理件数1件）

南風病院

4件（保険薬局での持ち込み整理件数4件）

肝付町立病院

4件（保険薬局での持ち込み整理件数4件）

アンケート調査

回答数	薬局薬剤師	25件	病院薬剤師	8件	患者	4件
-----	-------	-----	-------	----	----	----

21

多職種連携の実例（肝付地域）

肝属薬剤会：3地域に分かれて活動を行っている。

1 垂水地区（垂水市）10薬局

→担当者が直接訪問し資料配布・説明案内

薬局、地域包括支援センター、

ケアマネ事業所、訪問看護ステーション

2 南部地区（錦江町、南大隅町）9薬局

→担当者が直接訪問し資料配布・説明案内

3 東部地区（肝付町、東串良町）15薬局

→多職種合同説明会開催



22

多職種連携の実例（肝付地域）

3、東部地区（15薬局）

合同説明会開催

参加総数 44名

薬局薬剤師 10名

病院薬剤師 4名

病院スタッフ ソーシャルワーカー 3名

看護師、事務職、介護職等 4名

地域包括支援センター（2町）

（保健師・ケアマネ含む） 9名

グループホームスタッフ 3名

ケアマネージャー 7名

訪問看護師 4名

内容：事業説明、薬薬連携について、質疑応答

23

多職種連携の実例（肝付地域）

1 薬薬連携についての説明

⇒ その意義、重要性が理解されていない

2、情報共有ツールの確認

連携手段：主に F A X 利用（全員一致）

3、予定入院が少なく救急の入院が多いため、入院した後や退院時のみでも対応して欲しい→了承

4、入院だけでなく施設への入所時の支援の希望あり

→次年度以降検討

24

入退院時の連携事例③肝属薬剤師会

8月～9月肝付データ

	8月	9月	合計
バッグ配布件数	2	2	4
持参薬整理件数（薬局）		1	1
入院時情報提供依頼数 （病院→薬局）	18	16	34
入院時情報提供回答数 （薬局→病院）	11	15	26
退院時薬剤管理サマリー 提供数（病院→薬局）	5	7	12

25

第1期 令和元年8月19日～9月28日

「おくすり整理そうだんバッグ」を活用した
入退院時における多職種連携推進事業

結果

・入院時に薬局において持参薬整理を実施することで入院がスムーズになり、有効である。

・緊急入院の場合は、薬局から医療機関への情報提供のみでも有用性が高い。地域によってはほとんどが緊急入院のケース、という場合がある。

・取組内容を理解していただくことが難しく、期間内には対象事例は多くは得られなかったものの、事業に携わった薬剤師や多職種からは、その有用性が確認できる内容や意見が多かった。

26

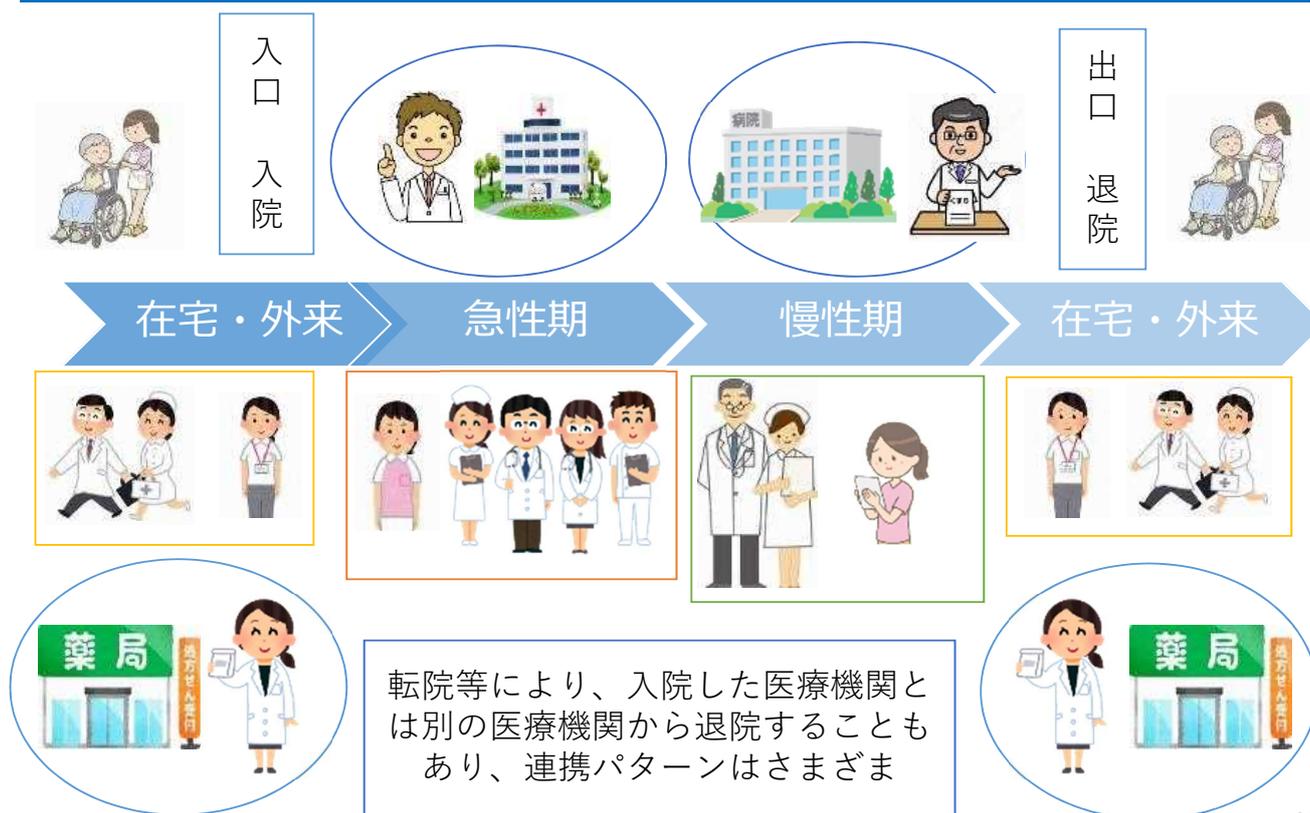
「おくすり整理そだんバッグ」を活用した 入退院時における多職種連携推進事業

考察

- 急性期の基幹病院等に入院した場合、他の医療機関に転院となるケースが多く、初めに入院した医療機関が退院時に薬局に情報提供する、という形にならない場合が多い。
- 地域ケア病棟などから退院する場合、医療機関から薬局への退院時の薬薬連携が非常に有用である。
- 特に多職種連携が活発に行われている地域においては、多職種からも今回の入退院時の薬薬連携事業は期待されている。→施設等への入所時の対応も期待されている

27

入退院時の連携のパターン



「おくすり整理そうだんバッグ」を活用した 入退院時における多職種連携推進事業

第1期を踏まえた第2期の方向性

- ・多職種連携が活発に行われている地域においては、さらに継続発展させ、本事業の有用性や問題点を探っていく。
- ・最初の入院先でない医療機関からの退院時においても、本事業を積極的に進め、医療機関内の多職種や地域の多職種も絡めてその有用性や問題点を探っていく。

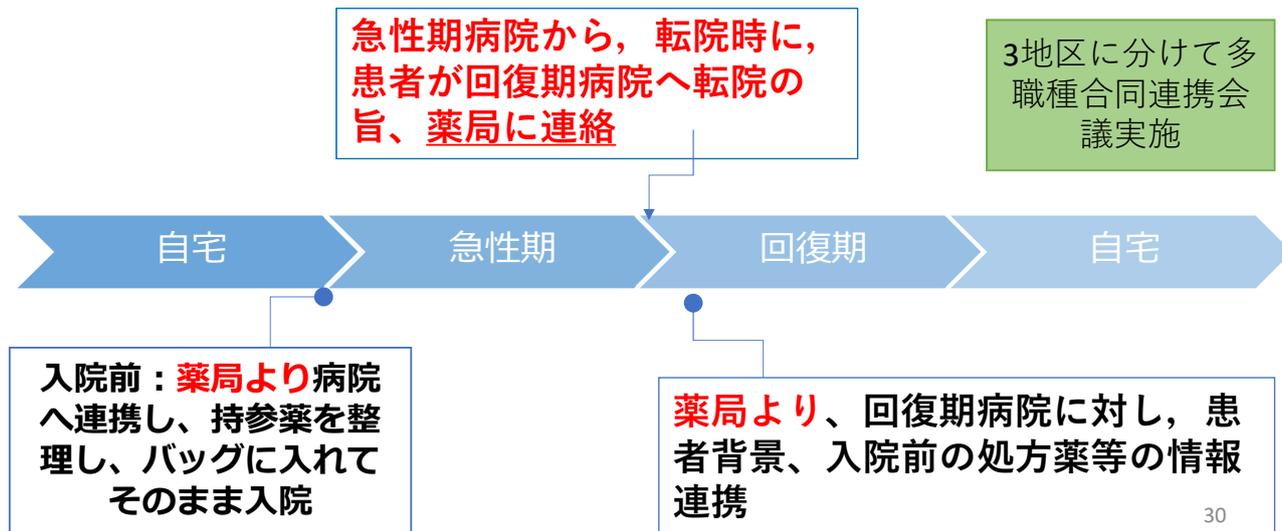
第2期 継続実施中

29

薬薬連携 好事例①

南薩地域（多職種連携推進モデル地域）

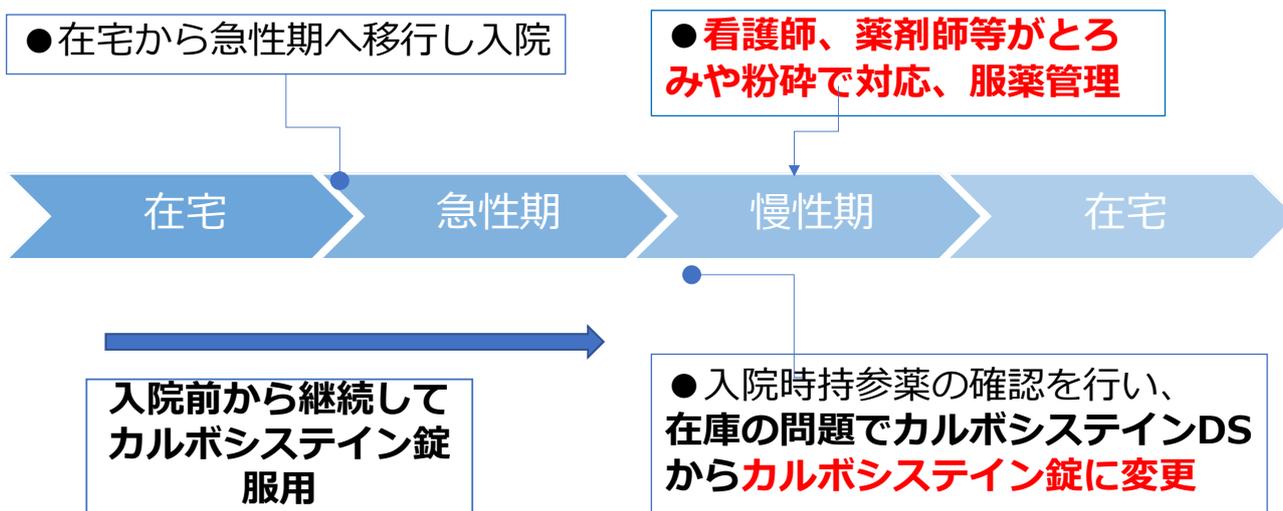
- 60代 女性
- 数か月前より、他県からの転入で糖尿病、腎疾患で近医を受診。
- 脊柱管狭窄症の悪化で他医療機関を受診し、緊急手術をすることに。
入院直前の来局により患者よりその情報を得て、薬局より入院手術予定の医療機関へ連絡し、連携。回復期の医療機関を経て退院。自宅へ。



30

薬薬連携好事例②（退院時）

- 80代 男性
- 在宅から緊急に急性期へ入院し、その後、地域包括ケア病床のある医療機関へ転院。再び在宅へ戻った。
- もともと、**カルボシステインDS**を服用。急性期病院はそのまま処方継続であったが、その後の転院先の医療機関の採用薬にはなく、**カルボシステイン錠に変更**。入院中においては**粉碎等**で対応していた。



31

薬薬連携好事例②（退院時）

《退院時カンファレンスにおいて》

- 退院処方として「錠」が処方されていたが、かかりつけ薬剤師の情報により、もともと**嚥下困難**のため**カルボシステインDS**を服用しており、介護者が**高齢の奥様**ということで「錠」の場合は**対応が難しい**→**再度ドライシロップへ変更**



今回の取組をきっかけに、ソーシャルワーカーを中心に退院時の連携に積極的になった。

多職種の集まる退院前カンファの頻度も高まり、2019年8月～12月に5～6例（内3件はかかりつけ薬剤師を含む）実施されるようになった。

【病院薬剤師の感想】

入院中の**服薬管理**で全く問題なかったため**カルボシステイン錠**のまま継続処方の見込みであったが、家族の介護力や本人の**嚥下能力**など**退院後の介護状況**に応じた**服薬支援の重要性**を**意識する機会**となった

32

薬剤師は、

入院前の段階から患者の退院後の生活を視野に入れて支援を考えるべきである



33

最後に

鹿児島県薬剤師会では、これまで患者のために頑張る薬局を支援するために、紆余曲折やってまいりました。

まだまだ道半ばではありますので、こうした取組を参考にしていただければ、各県で、各地域で、取り入れていただき、それぞれ独自の形に発展させて、ご教示いただきたいと思います。

そうした姿が**国民が私たち薬剤師に求める、地域包括ケアシステム**であり、**患者のための薬局ビジョン**であり、また、**かかりつけ薬剤師**ではないかと思えます。

34